



大門小だより

6月号

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

令和元年5月29日

横浜市立大門小学校

人を想う

副校長 佐々木 一高

日を追うごとに気温も増し、万物が次第に長じて天地に満ち始める時季となりました。二十四節気「小満」は、麦の穂が実り始め、ほっとひと安心（少し満足）という意味だそうです。学校では、1年生が学校を探検しながら出会う先生に積極的に名前を聞いたり、中休みの友達とのボール遊びを心待ちにしている子がいたり、人とのつながりを広げる子どもたちの姿が窺えます。



「地域の〇〇です。本日、お電話差し上げたのは……」

GW明けの風薫るさわやかな日、職員室の電話が鳴りました。地域の方からです。

「4月中旬のことです。私が大和のシリウスへ向かう途中、自転車でバランスを崩して転び、籠に入れた本が散乱してしまいました。そのとき、傍を歩いていた大門小に通う女の子数人が素早く駆け寄り、『大丈夫ですか？』と私に声をかけ、一緒に本を集めてくれたのです。さりげない心遣いにうれしさが込み上げた一方で、転んだことの恥ずかしさが先立ってしまい、きちんとしたお礼が言えずに私はその場を去ってしまいました。少し前の出来事とはなってしまいましたが、お礼を含めて子どもたちのすてきな姿を学校にも知らせたい、ぜひ全校児童にも知らせてほしいとの思いで連絡させていただきました。人を想う気持ちを大切にされている皆さんにどうぞよろしくお伝えください。ありがとうございました。」

人を想う子どもの姿が地域の方の心をひらいた出来事に、職員室も笑顔に包まれました。

心をひらくといえば「挨拶」。「挨（アイ）」は「ひらく/押す」、「拶（サツ）」は「せまる/押し返す」であり、「自分から挨拶をして、相手の心をひらく」「挨拶をされたらきちんと挨拶を返す」の意味をもちます。また、日本語の「おはよう」は「朝からお早いですね」と、事実描写を表しますが、英語の“Good morning.”は“I wish you a good morning.”であり、「あなたにとって良い朝が訪れますように」と、お祈りを表すようです。当然、国により文化が違いますし、意味や感覚も異なります。所作についても「おじぎ」「ハグ」「手合わせ」「舌を出す」「グーを合わせる」「握手」など、多種多様であることが分かります。その一方で、「人を想う」という点では万国共通ですし、日本のみならず、どの国どの文化においても挨拶は人と人をつなぐコミュニケーションの基本であり、相手との距離を近づけるきっかけになっていることは間違いありません。

6月には、児童代表委員会による『あいさつ週間』が企画されています。挨拶の意味や価値を理解した上での実践は難しいことかもしれません。しかし、挨拶の先には人とのつながりがあります。「人を想う」心につながっていることを実感できるような『あいさつ週間』でありたいと考えます。

保護者、地域の皆様、今後とも「人を想う」大門っ子の魅力探しのお手伝いをよろしくお願いいたします。